



# JFEグループの成長戦略

2010年11月30日

JFEホールディングス株式会社

代表取締役社長 馬田 一

1.	JFEの概要.....	3
2.	JFEスチールの強み .....	7
3.	JFEの技術力 .....	11
4.	JFEスチールの成長戦略 .....	19
5.	2010年度業績見通し概要 .....	34

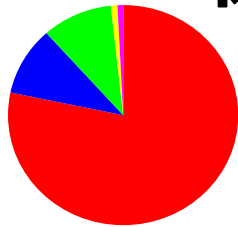
本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、提示された予測等は説明会の時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控え下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。



# 1. JFEの概要

# JFEグループの事業構成(09年度)

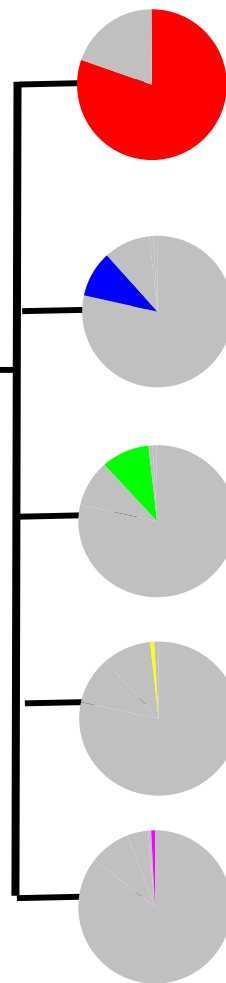
## JFEホールディングス 株式会社



売上高: 2兆8,443億円(09年度)

経常利益: 692億円(09年度)

従業員数: 53,892人(連結、10.3末)



### JFEスチール株式会社

売上高: 2兆2,814億円

### JFEエンジニアリング株式会社

売上高: 2,942億円

### ユニバーサル造船株式会社

売上高: 2,867億円

### JFE都市開発株式会社

売上高: 269億円

### 川崎マイクロエレクトロニクス株式会社

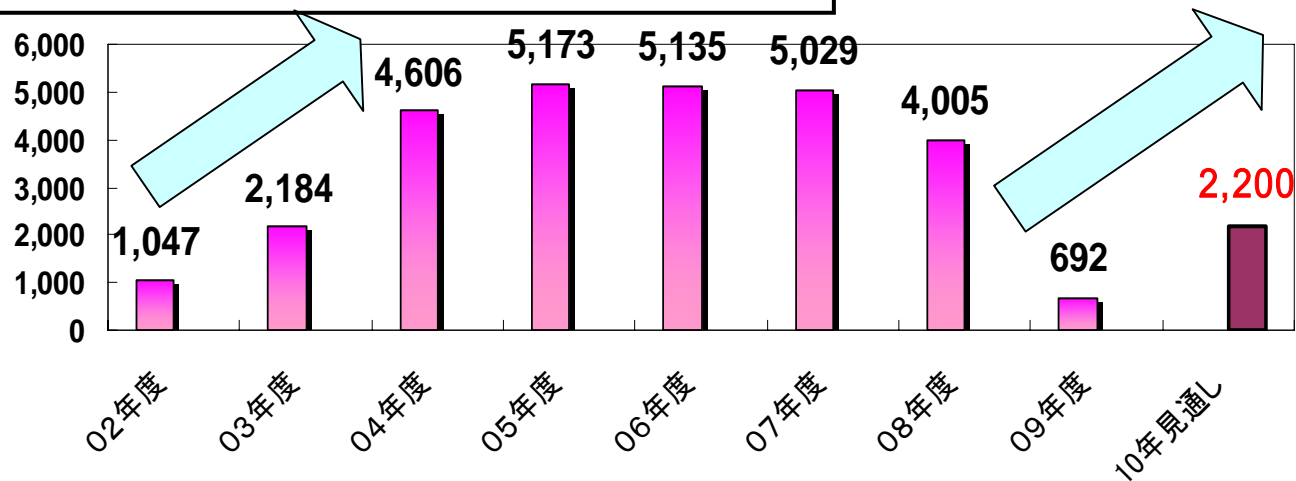
売上高: 246億円

# JFE発足以来の粗鋼生産と業績の推移

## ①生産規模：粗鋼生産量推移(万トン)



## ②利益規模：経常利益推移(億円)





# JFEグループの4つの経営課題

JFE

リーマンショック以降の「国内を含めた先進国の低迷」と「アジアを中心とした新興国の力強い回復」というマーケットの変化を踏まえて、以下の経営課題に取り組中。

- 10年先を見据えた革新的な技術開発
- アジアでの事業拡大
- 環境・エネルギー分野への注力
- 将来の成長への投資と財務体質強化のバランス



## 2. JFEスチールの強み

# JFEスチールの強みー集約された大規模製鉄所

① **東西2大製鉄所**で9基の高炉を保有。(※統合直後11基)

② **現在8基稼動中、1基改修中**(~11年5月)。

⇒ **改修後3, 300万t体制**に。(※統合直後2,650万t)

③ **うち、6基が5,000m<sup>3</sup>超の大型高炉**。(※統合直後2基)

(※5,000m<sup>3</sup>超の大型高炉は世界で21基のみ)

## 主要製鉄会社の高炉数と炉容積

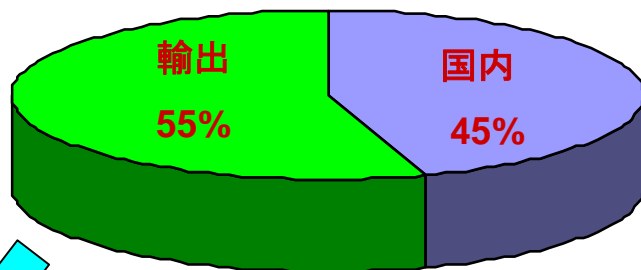
	JFE スチール	国内 A社	国内 B社	国内 C社	韓国 D社	中国 E社
炉容積 5,000m <sup>3</sup> 越え	6	4	2	1	1	0
(内、休止中)	(1)					
全高炉保有数	9	9	5	3	10	22



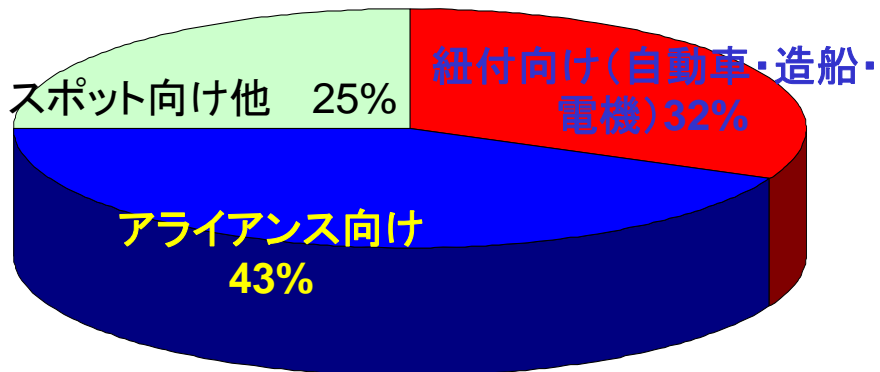
# JFEスチールの強みー 安定した顧客基盤

09年度実績

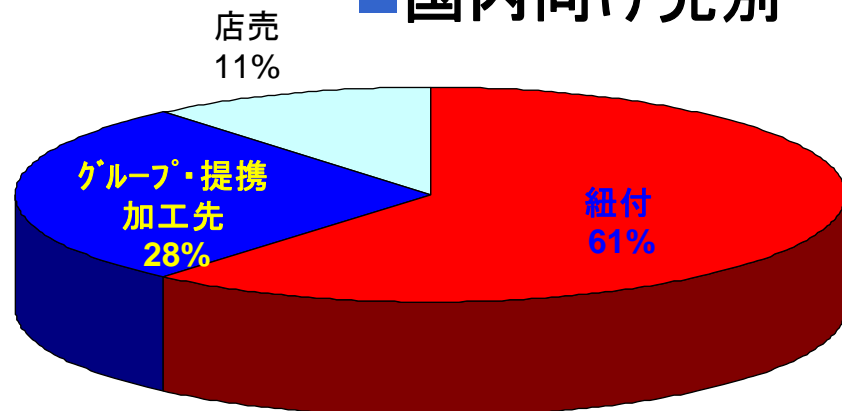
輸出の88%が  
アジア向け



■ 輸出用途別



■ 国内向け先別

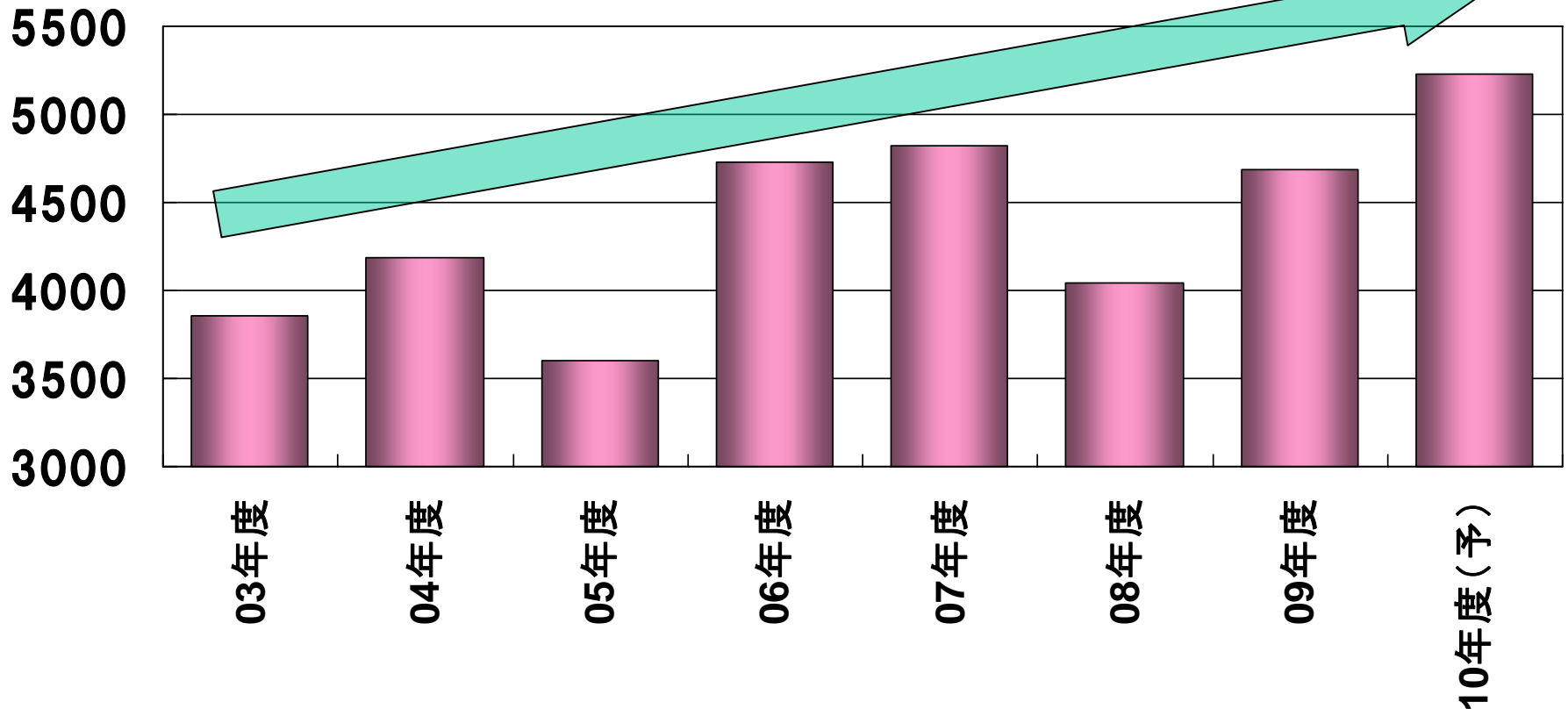


- ① アジアの需要を捕捉した結果、55%という高い輸出比率
- ② 国内の89%が紐付・グループ・提携加工先向け
- ③ 輸出の75%が紐付・アライアンス向け

# JFEスチールの強みー拡大するアライアンス向け出荷

アライアンス向けの出荷は、リーマン・ショック後一時的に減少したが、アジア市場の回復に伴い、かつ、アライアンス先の拡大に伴い順調に増加。

アライアンス向け出荷量推移(単位:千t)



### 3. JFEスチールの技術力

#### ■ 企業理念

JFEグループは  
常に世界最高の技術をもって  
社会に貢献します。

## 今後一層高まっていく高級鋼のニーズ

お客様の品質要求は一層高まっていくと想定される。

Ex. ・更なる安全性

・更なる快適性

・更なる省エネルギー

・更なる低コスト化

・既存資源(エネルギー)のフロンティア化 etc.



高度化する品質要求、特に、ともすれば相反するいくつかの品質要求(ex. 高強度⇔高加工性)のいずれをも高いレベルで満足する高級鋼の需要はますます高まっていくものと想定される。

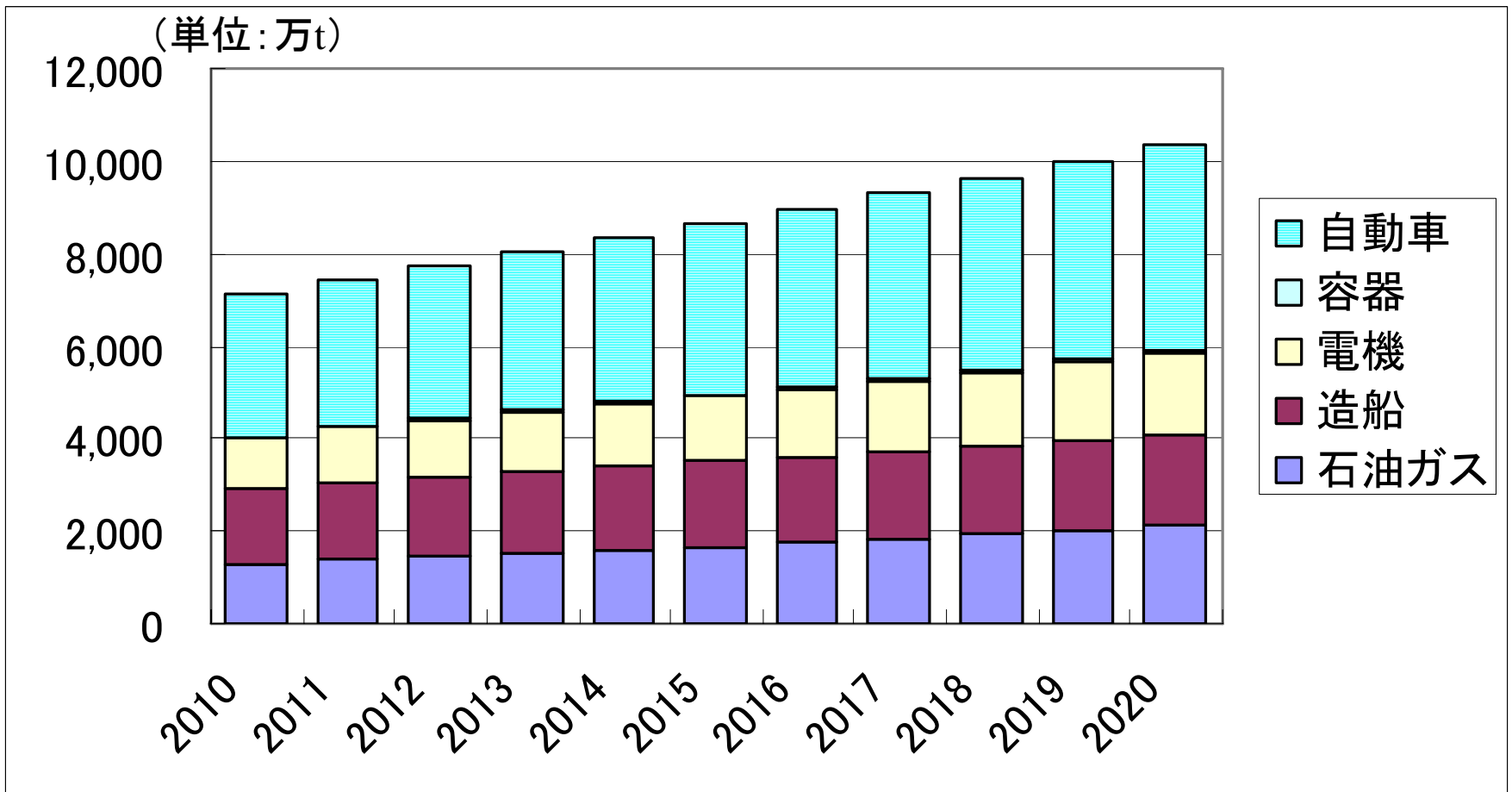


# アジアの高級鋼マーケットは今後10年で33百万t拡大

JFE

用途別内訳：（除く日本）

自動車13百万t、石油ガス10百万t、電機向け7百万t、造船向け3百万t



# お客様と一体となった技術開発

◆業界で初めて、**お客様と一体となり共同研究できる試験・研究施設を開設**し、常に最先端のレベル維持を指向

(加工性・衝撃性・耐久性予測等のシミュレーション技術を駆使。)

◎「カスタマーズ・ソリューション・ラボ  
(Customers' Solution Laboratory: CSL)」



◎「鋼構造材料ソリューションセンター  
(Steel Materials for Application Research  
& Technology :THiNK SMART)」



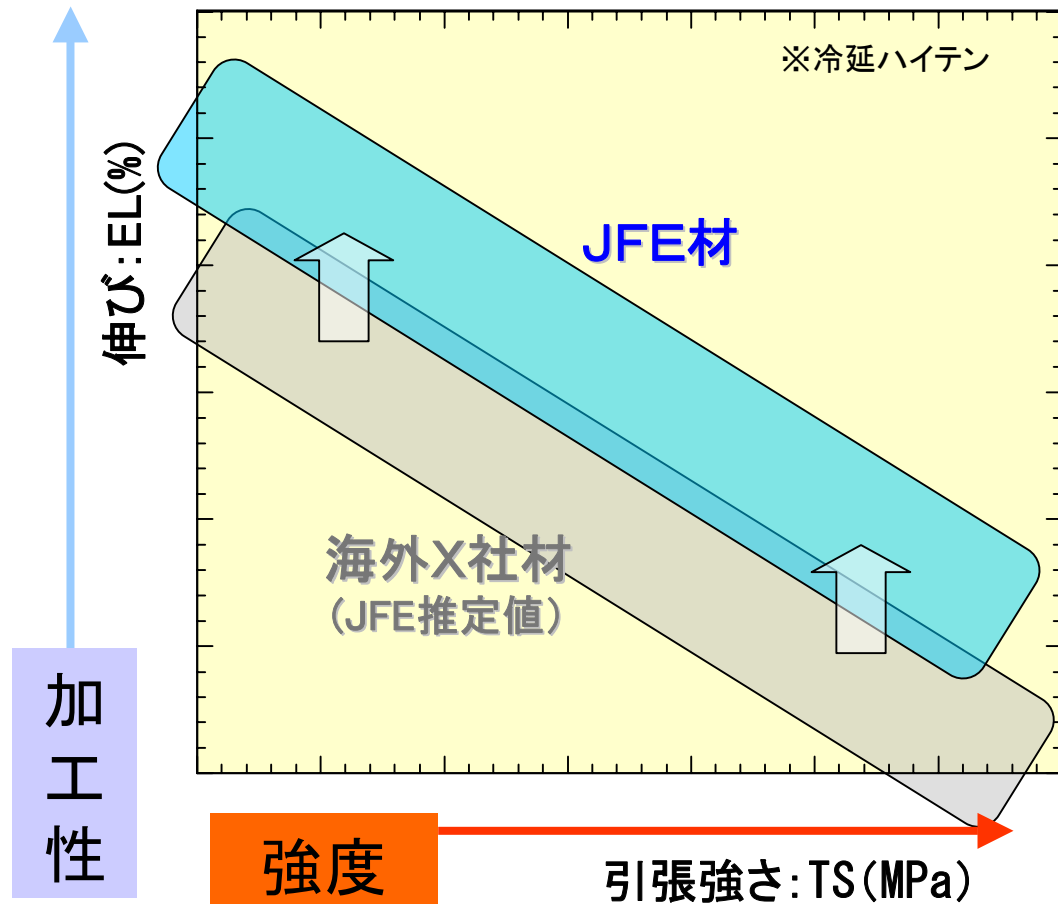
# 常に他社の先を行く技術力(自動車用鋼板)

**高強度**(燃費向上のため  
軽量化は図りたいが、**安  
全性維持のために強度  
は維持したい)**

**高級鋼**: 相反する性質を  
高次元で両立

**高加工性**(自動車の多種  
多様なデザインのプレス  
加工に対応可能)

## 海外X社との比較





# 世界の自動車の8台に1台は

## JFEの自動車用鋼板技術を使用

① **全世界の自動車の約12%**はJFEの自動車用鋼板技術を使用している。

・供給形態は、直接輸出から技術供与した現地アライアンスメーカーまで含めて、である。

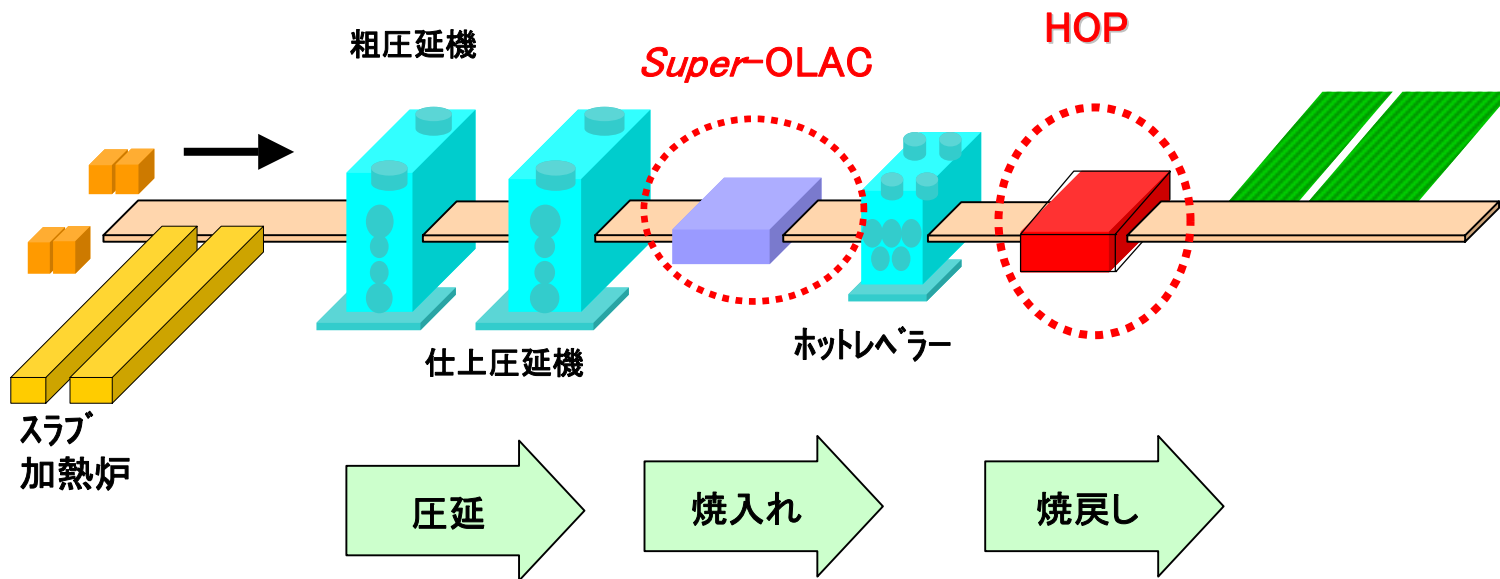
・日系では世界全体の25%越え、アジア・オセアニアの35%越えである。

② 個々の要素技術のみならず、日系を始め各自動車メーカーとEVIをして来たこと、安定的なデリバリー、営業力までの総合力を長期間にわたり、評価された結果である。

③ **ハイブリッド、電気自動車**についての増は当社が得意とする**高級電磁鋼板**の需要増につながる可能性大。



# 世界初の「高級厚板の完全連続化」



## Super-OLAC

- 高冷却速度技術  
(形鋼・薄板なみの冷却を達成)
- 均質冷却技術  
(ばらつき: 従来の1/2  
( $3\sigma$ :  $60 \Rightarrow 27\text{MPa}$ ))

## HOP

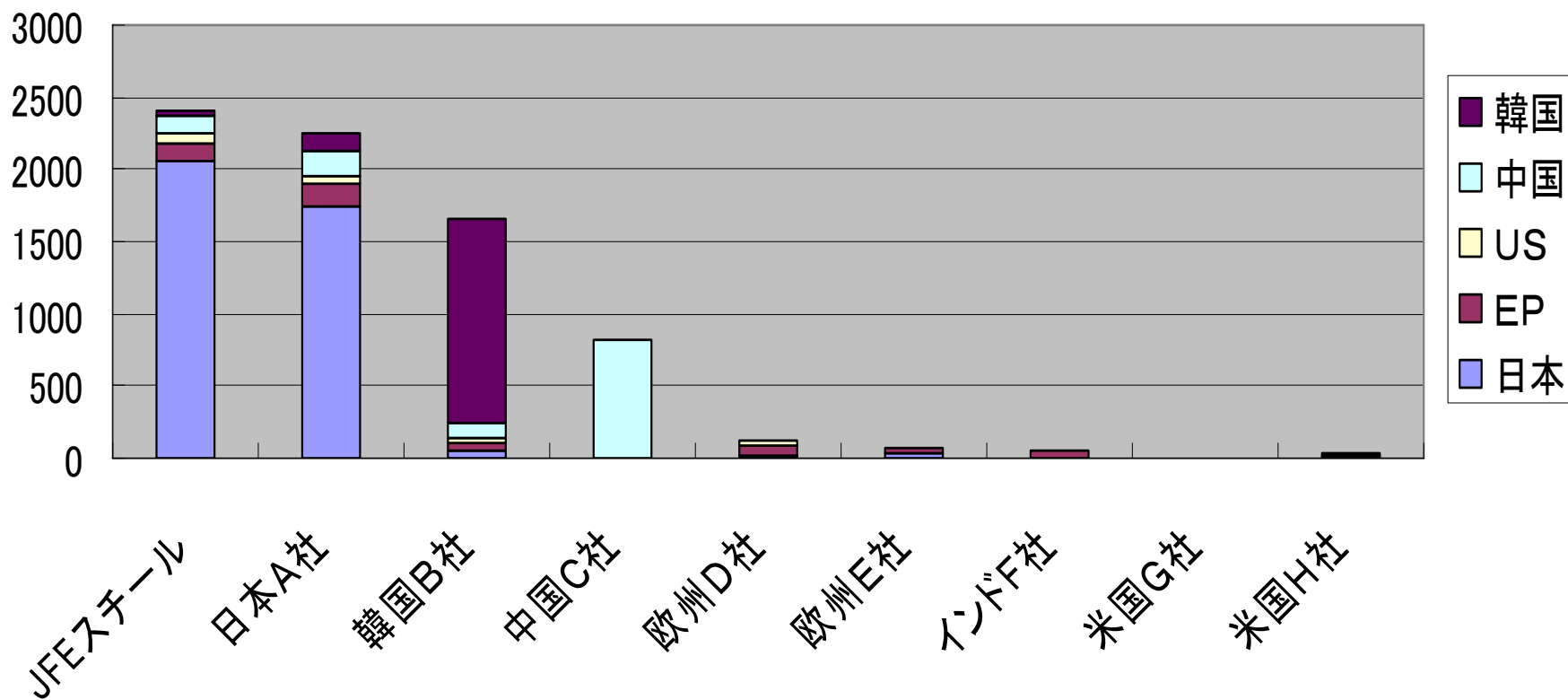
- 誘導加熱方式による高能率処理  
(加熱速度 70倍:  $0.15 \Rightarrow 10 \text{ }^\circ\text{C/s}$ )
- 均一温度制御技術  
(温度精度:  $\pm 10^\circ\text{C}$ )

- ①世界初の「高級厚板の完全連続化製造」の実現
- ②省エネルギー、大幅な工期短縮(約1/20)、在庫削減に寄与

# 世界鉄鋼各社との地域別特許の件数比較

## 世界でもトップレベルの特許公開件数

世界主要鉄鋼各社公開特許数(08+09暦年)

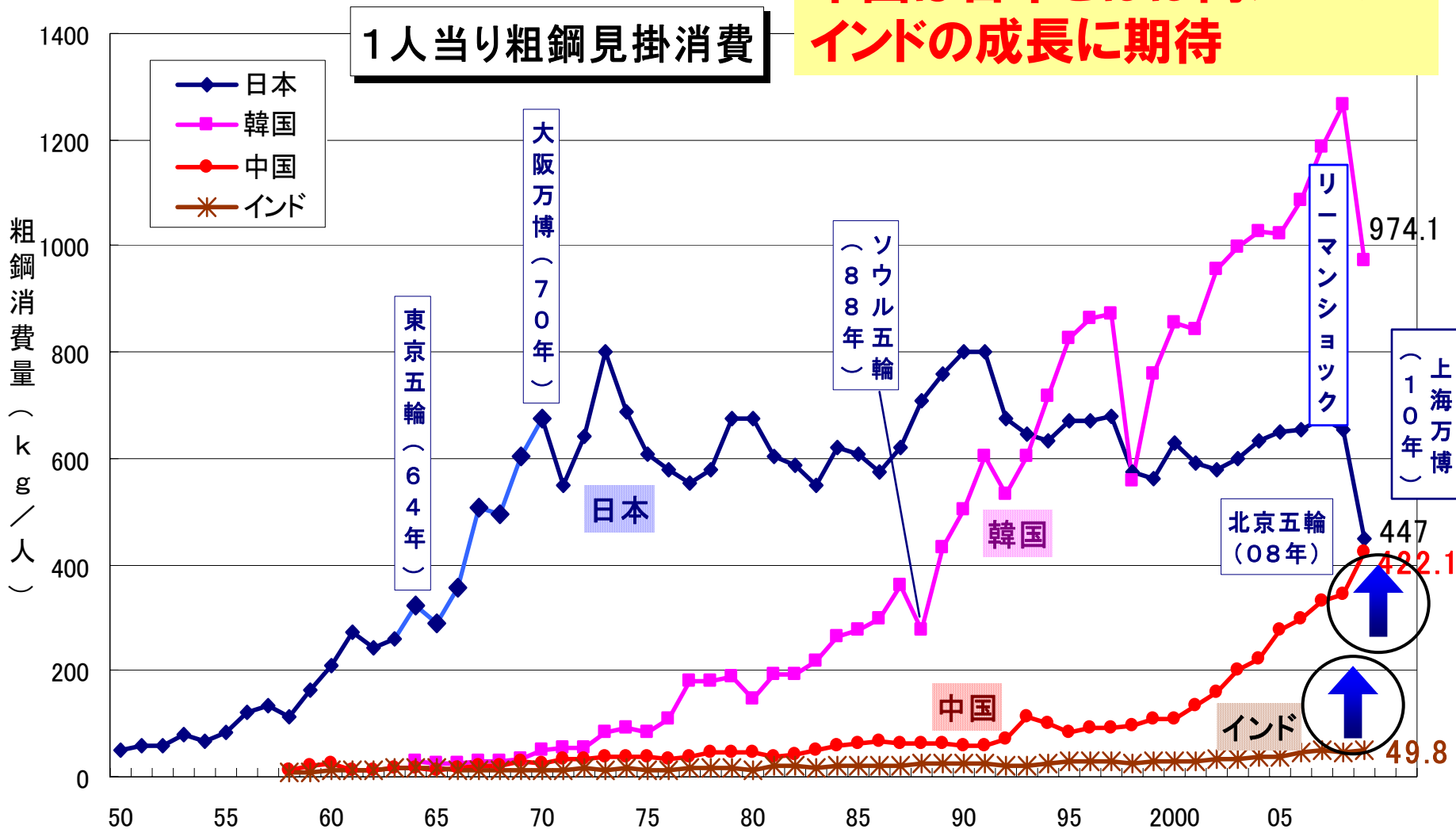




## 4. JFEスチールの成長戦略

# 新興国等の鋼材消費は経済成長につれて増加

**中国は日本とほぼ同レベル  
インドの成長に期待**



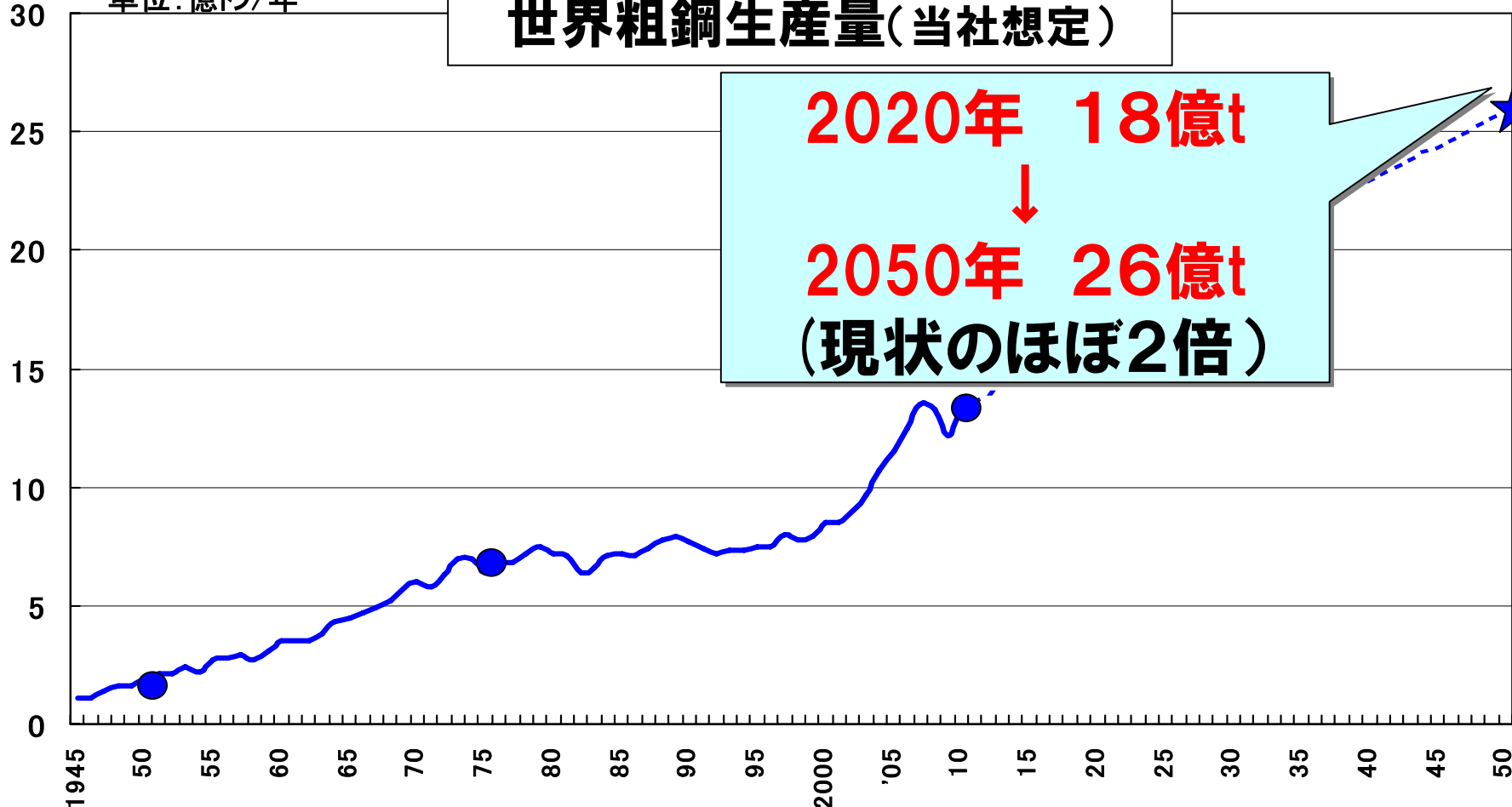


# 成長する鉄鋼～2050年でほぼ倍の26億トン

JFE

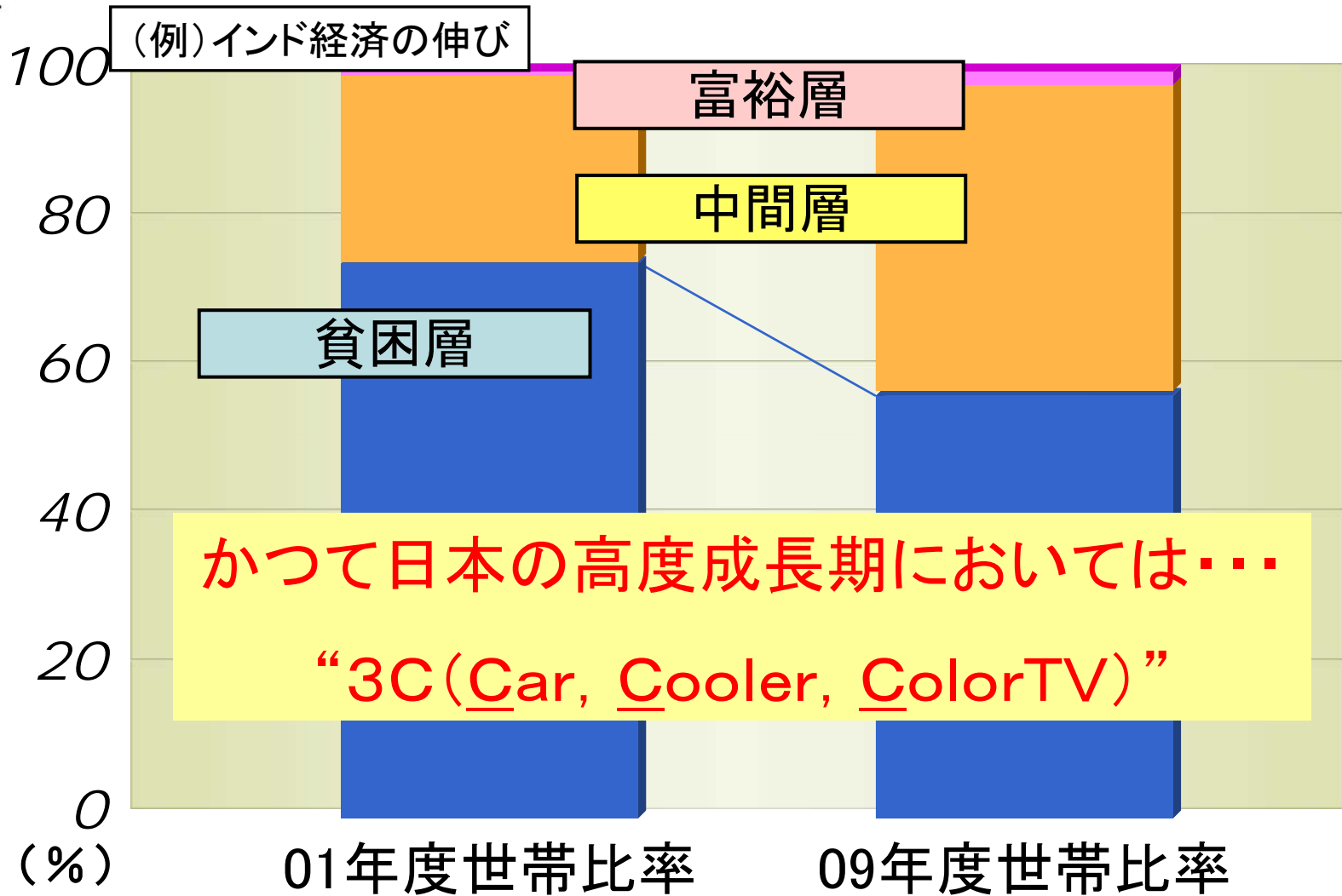
単位:億トン/年

## 世界粗鋼生産量(当社想定)



	1950年	1975年	2010年	50年(ベース)	50年(一定)
一人当り粗鋼量(kg/人・年)	75	159	190	281	190
世界人口 (億人)	25.4	40.8	69.1	91.9	91.9
粗鋼生産量 (億トン/年)	1.9	6.5	13.2	25.8	17.6

# 中間層の増加が高級鋼需要を促進する

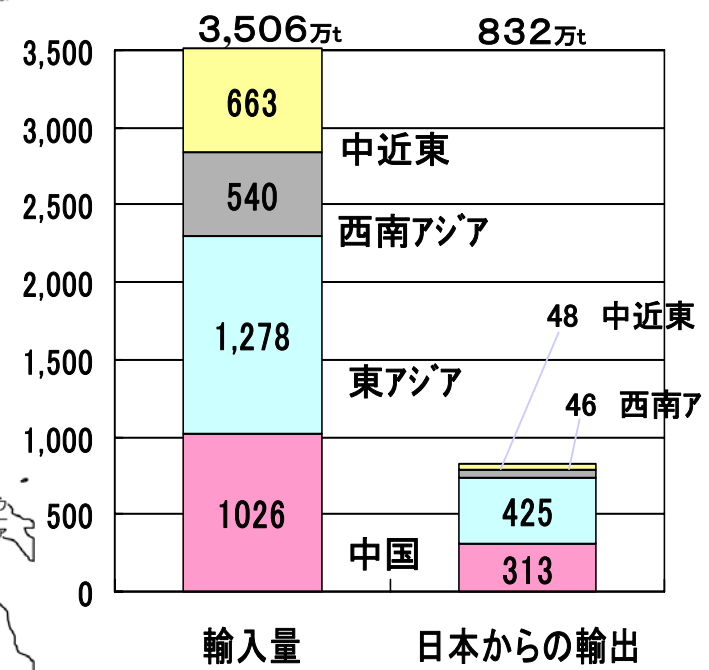
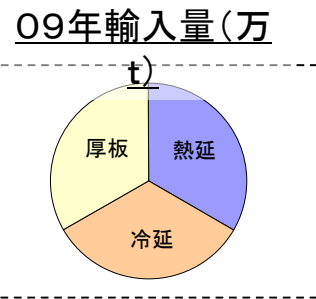
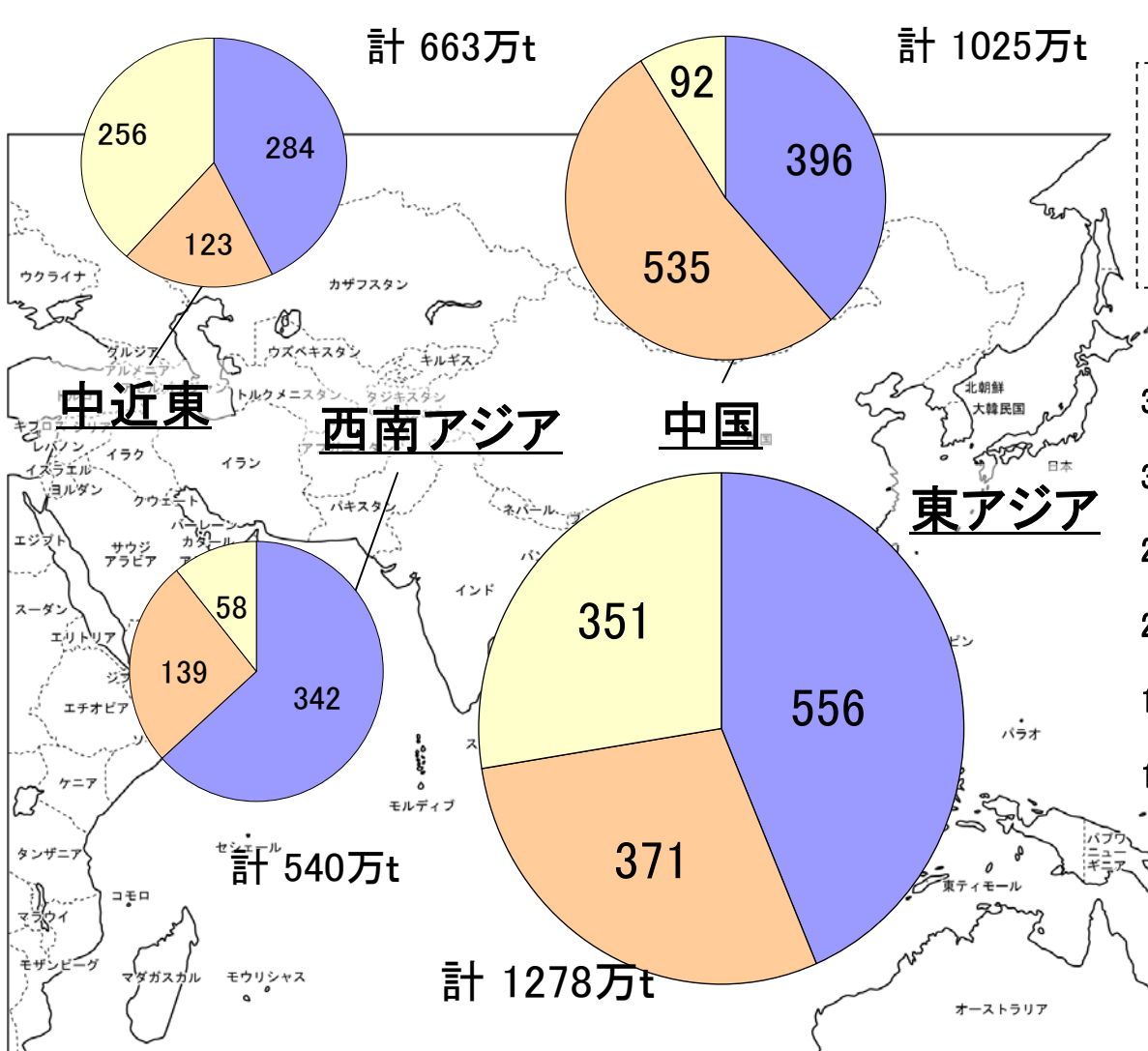


■ 貧困層   
 ■ 中間層   
 ■ 富裕層



# 輸出拡販 中近東までターゲット地域

各地域の輸入量に比して日本からの輸出は小さい。





JFE

# 海外市場毎に特性に応じてアプローチ



	韓国	中国	タイ	東南 アジア	インド	中近東	北米	南米	欧州
直接輸出	拡販実行中								
垂直分業 (半製品輸出) 含む出資	東国 現代 ハイスコ 東部	GJSS プリキ メーカー	TCR TCS JGS	プリキ メーカー ベトナム SPR	戦略提携 (JSW)		CSI	プリキ メーカー	
現地事業			一貫製鉄所 建設検討中				AK スチール	一貫 製鉄所 建設 検討中	
技術による アライアンス	東国 現代 ハイスコ						AKスチール (USスチール)		TKS GMH



## 高炉9基体制(3300万t/年)に向けて

- 2010年度粗鋼見通し約2900万t/年(高炉8基)  
→2011年度以降粗鋼 3300 // (高炉9基)  
⇒ **輸出拡販量:約+350万t/年**

### <内訳>

- ・自動車、造船、電機向けなど高級鋼  
(←今後10年間で33百万tの伸び)
- ・“オーダーメイド化”された汎用品  
(←アライアンス先との密接な会話を通じて、  
よりお客様の要望にマッチされた商品をご提供)

### <戦略>

- ・地域に応じた商社活用
- ・更なるアライアンス拡大及び一層の連繋強化
- ・コアリローラーとの関係強化



# 海外ミルとの協力関係(販売先)(アジア地域)

## 中国

- ・ 広州JFE鋼板(自動車・電機)
- ・ 福建中日達金属(ブリキ)
- ・ 海南海宇鋼板工業(ブリキ)
- ・ 渤海能克鑽杆有限公司(ドリルパイプ)

## 韓国

- ・ 東国製鋼(厚板)
- ・ 東部製鋼(ブリキ)
- ・ 現代HYSCO(自動車)
- ・ 現代製鉄(自動車)
- ・ 世亜製鋼(パイプ)

## インド

- ・ JSW(自動車)

## JFEスチール

## 台湾

- ・ 統一実業(ブリキ)

## タイ

- ・ TTP(ブリキ)
- ・ TCR(自動車)
- ・ TCS(電機)
- ・ JSG(自動車)

## ベトナム

- ・ SUNSCO(パイプ)
- ・ SPR(鋼管杭)

## マレーシア

- ・ Perstima・Mycron(ブリキ)
- ・ (自動車)

## ①タイで最初の自動車用溶融亜鉛メッキライン

⇒今後見込まれる高級自動車用鋼板

の「需要増」&「現地調達化」対応

## ②自動車生産の中心に立地

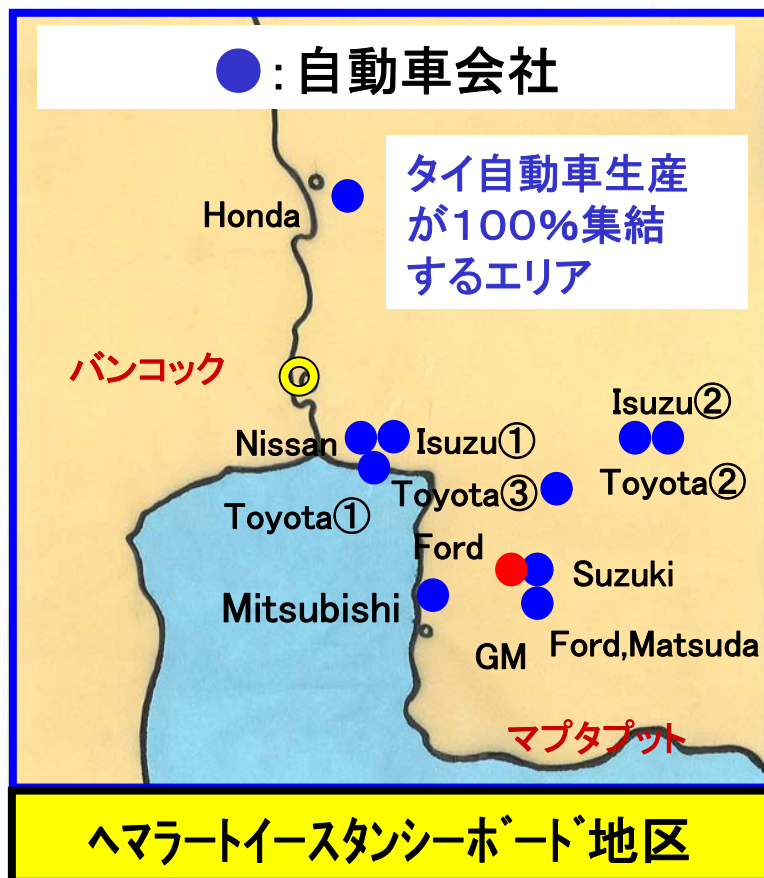
③約3億USD (JFE: 100%)

④40万トン/年

⑤原板は当面日本から供給

(将来はタイ現地J/Vからも視野)

⑥2013年4月稼動予定





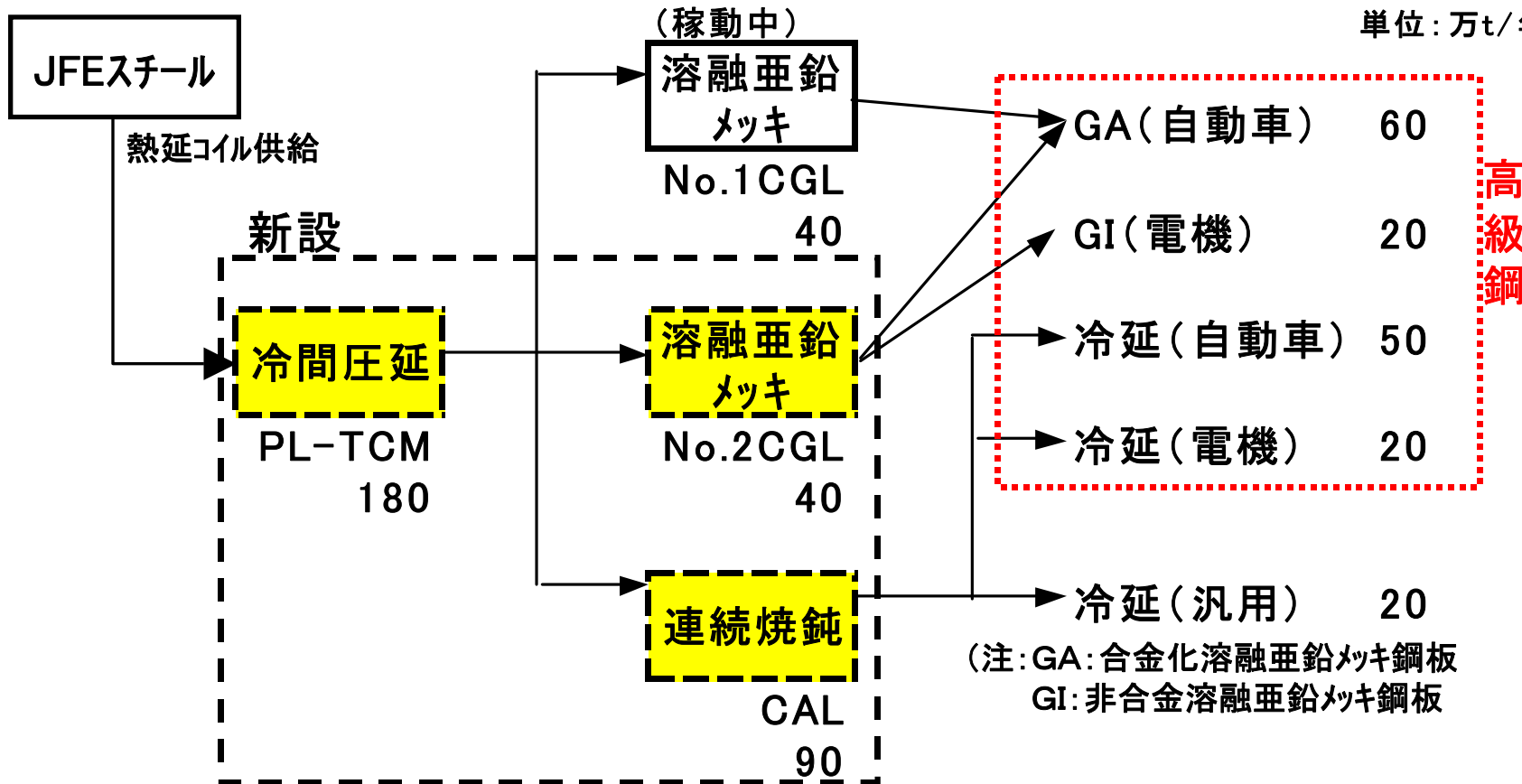
# 広州JFE鋼板の拡大

- 広州JFE鋼板：JFEスチール 50%、広州鋼鉄 50%
- 第二期：07年10月 建設開始、2011年本格稼動予定  
⇒最終形：溶融亜鉛メッキ×2、連続焼鈍×1(+130万t/年)

<生産設備>

<製品>

単位：万t/年



(注：GA：合金化溶融亜鉛メッキ鋼板  
GI：非合金溶融亜鉛メッキ鋼板)

## 1. インドの自動車用鋼材での提携に合意:

- ・具体的には、製造技術の供与(熱延、冷延、溶融亜鉛)、原板供給、需要家への共同サービスの実施。
- ・項目契約により詳細な役割とスケジュールを取決め。

## 2. 将来に向けた提携拡大:

- (1) 自動車用鋼材以外の鉄鋼製品製造
- (2) 省エネ分野
- (3) 品質・歩留改善
- (4) JSW社の設備能力診断
- (5) 各種指標のベンチマーキング化
- (6) JFEからの出資

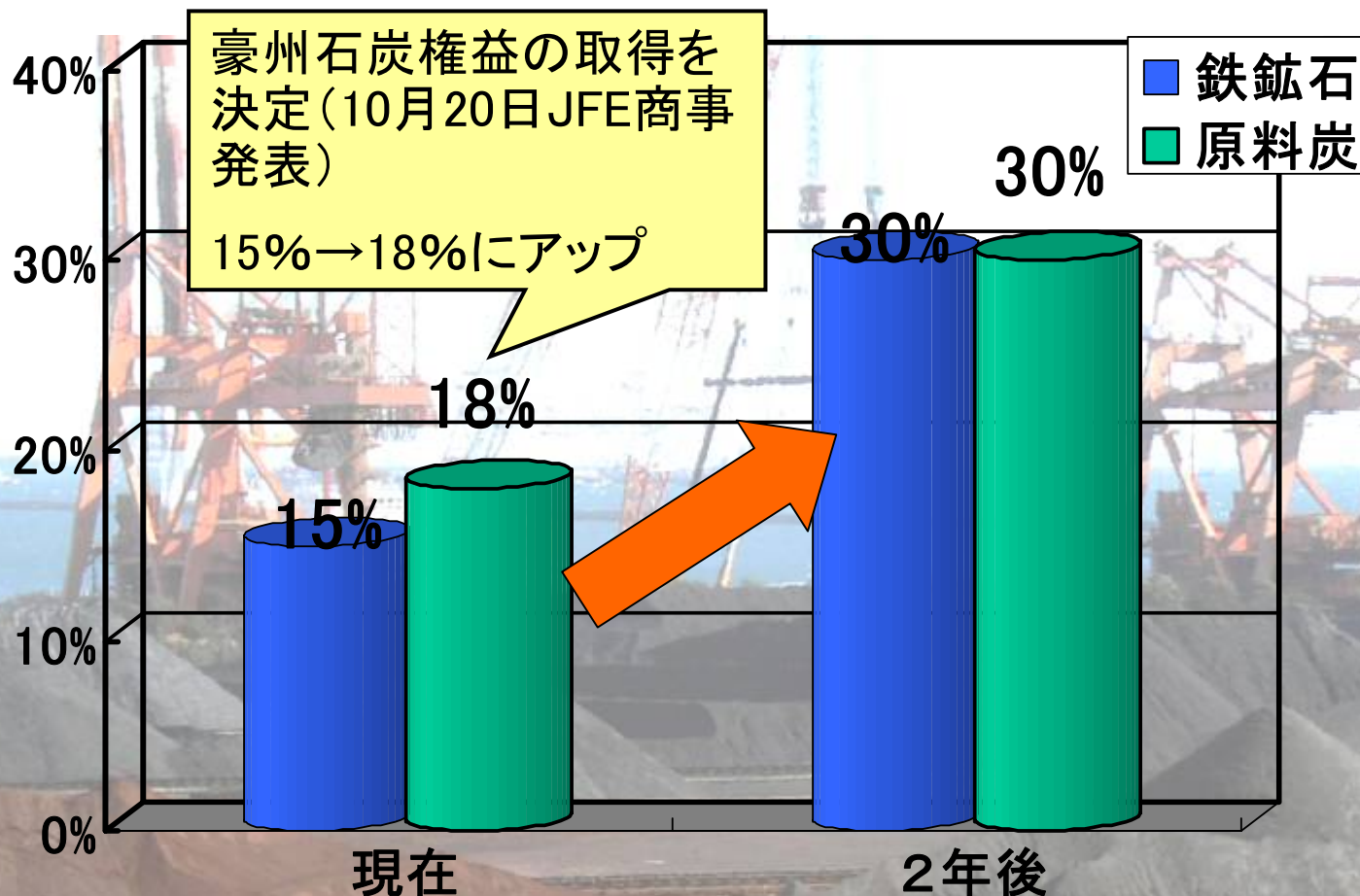


# ベトナムにおけるスパイラル鋼管製造会社の買収について (2010.11.15発表)

1. 趣旨: 東南アジアにおける大型インフラプロジェクト対応
2. 出資比率: **JFEスチール35%**、  
丸一鋼管グループ35% (丸一30%、SUNSCO社5%)  
豊田通商30%
3. 出資金額 (3社合計): 180億ウォン (**約13億円**)
4. 生産能力: **5万トﾝ (年間)**
5. 主要設備:
  - **スパイラル鋼管造管機1機**
  - **コーティング設備**
6. 製造品種: 鋼管杭・鋼管矢板



# 原料自社保有比率の拡大に向けて



- 鉄鉱石の例: ブラジルナミザ社の鉄鉱石権益の6.5%を取得('08)
- 原料炭の例: 豪州Qコール社バイアウェン炭鉱権益の20%を取得('09)

## 2011年度末までに7,000億円の投資を見込む

- |            |            |
|------------|------------|
| ▪ JSWへの出資  | 1,000億円(済) |
| ▪ 設備投資(国内) | 4,000億円    |
| ▪ 投融资      | 2,000億円    |

(目的)

- メインは原料権益取得
- それ以外をアライアンスネットワークの拡大へ

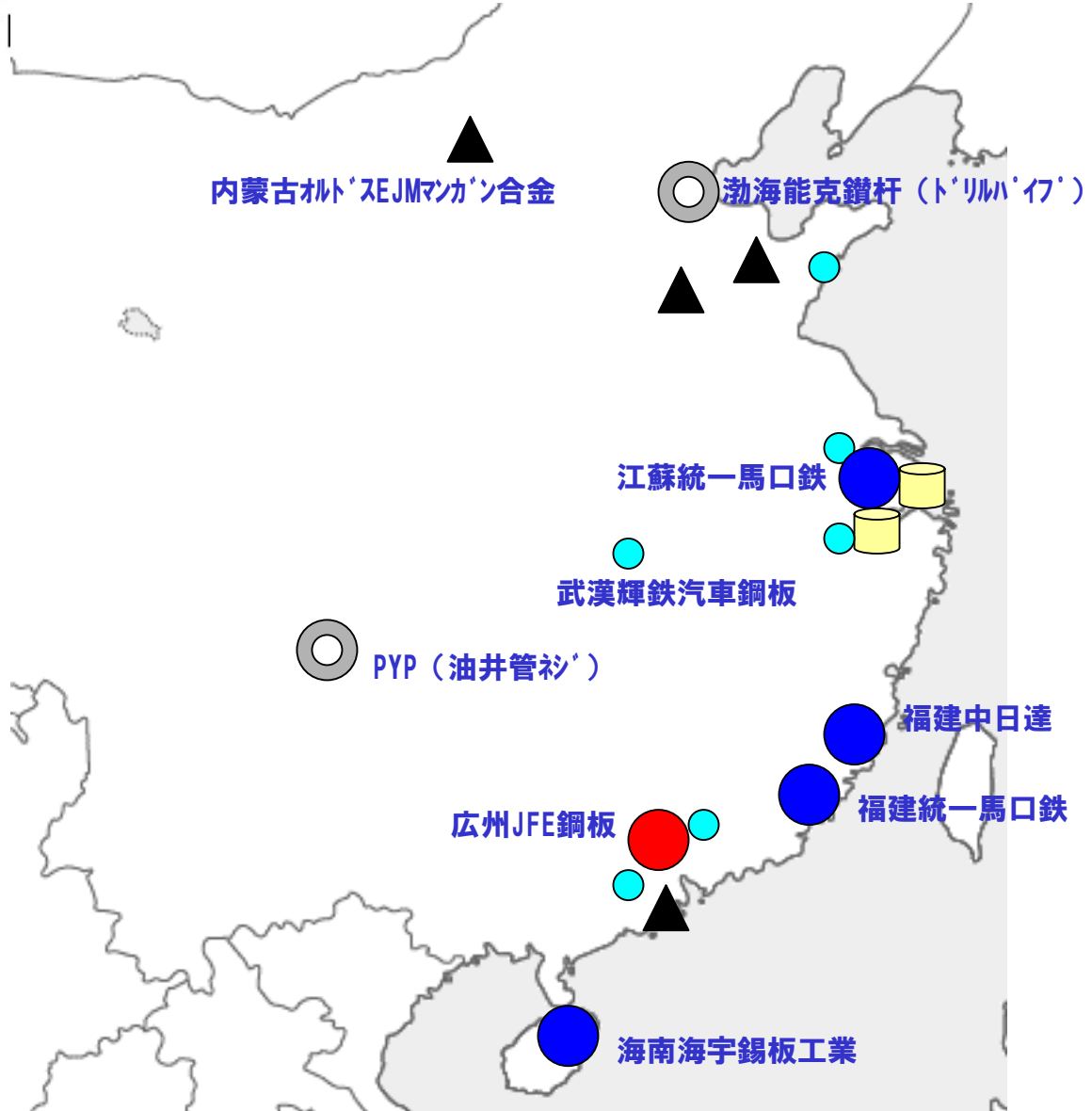




# 参考) JFEグループの中国展開

JFE

JFEスチール出資先には社名記載(無記載はグループ会社による出資)



	自動車用鋼板
	ブリキ
	シームレスパイプ
	ドラム缶
	資源関連
	コイルセンター

## 5. 2010年度業績見通し概要

# 2010年度 決算見通し概要

2010年度は前年比3倍まで回復

(単位:億円)

	2009年度 (A)	2010年度見通し	
		上期実績	合計(B)
売上高	28,443	15,722	33,600
営業利益	887	1,148	2,300
経常利益	692	1,049	2,200
当期純利益	456	460	1,100



# 2010年度 決算見通し概要【セグメント別】

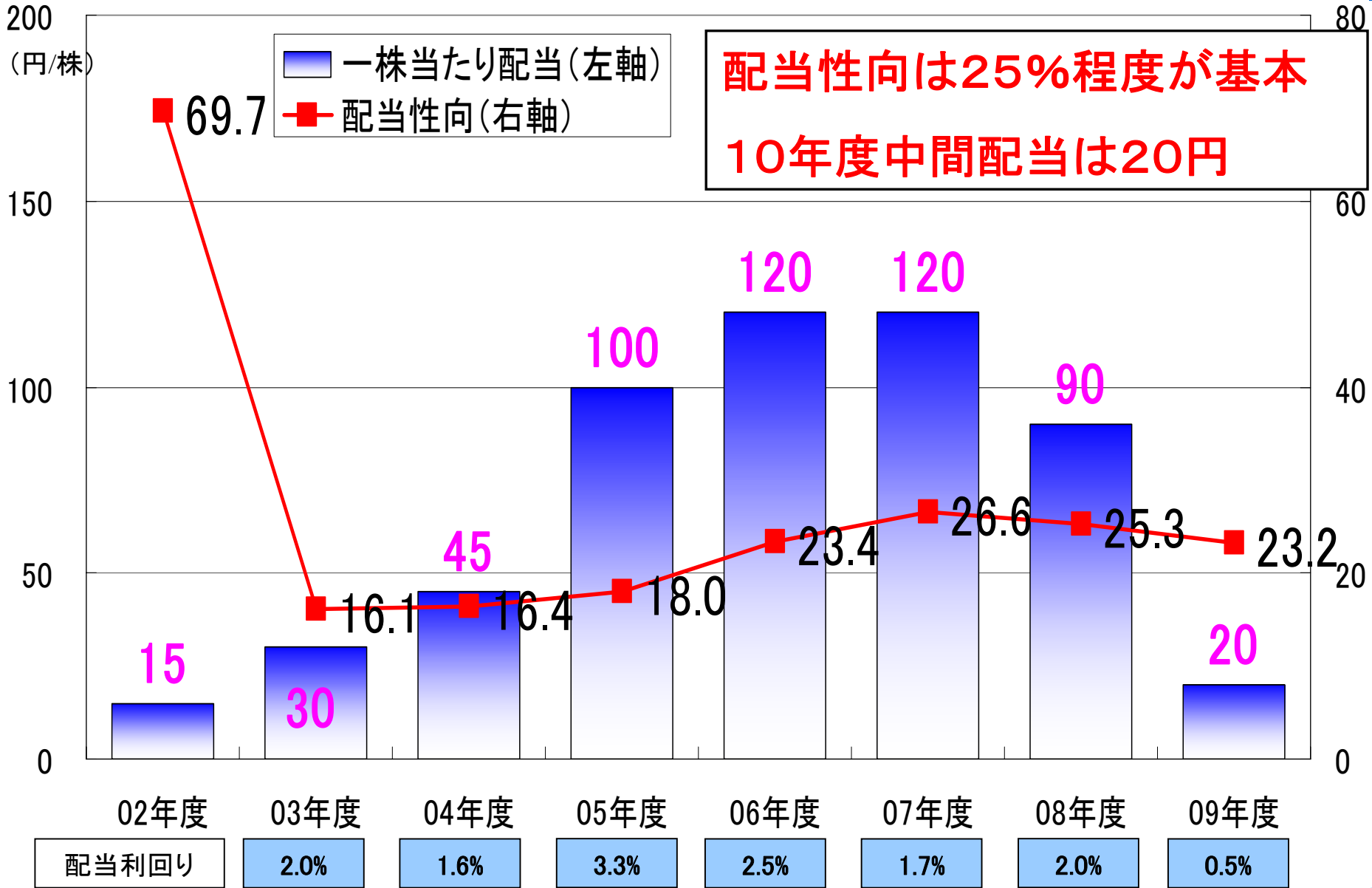
JFE

[セグメント別]

		2009年度			2010年度見通し		
		上期	下期	合計(A)	上期実績	下期	合計(B)
鉄鋼事業	売上高	10,620	12,194	22,814	13,695	15,305	29,000
	経常利益	▲ 724	1,047	323	881	1,119	2,000
エンジニアリング	売上高	1,169	1,773	2,942	1,048	1,652	2,700
	経常利益	28	105	133	34	46	80
造船事業	売上高	1,388	1,479	2,867	1,066	1,034	2,100
	経常利益	104	111	215	125	5	130
その他事業	売上高	228	287	515	206	174	380
	経常利益	▲ 18	▲ 9	▲ 27	3	▲ 8	▲ 5
調整	売上高	▲ 340	▲ 355	▲ 695	▲ 295	▲ 285	▲ 580
	経常利益	36	12	48	6	▲ 11	▲ 5
合計	売上高	13,067	15,376	28,443	15,722	17,878	33,600
	経常利益	▲ 574	1,266	692	1,049	1,151	2,200



# 株主還元について



以 上